

「新しい市民社会づくりとパートナーシップの形成」

せんだい・みやぎ NPO センター 代表理事 加藤哲夫

NPO に関する最近の見方としては、行政は非効率だから NPO に仕事をまかそう。

市民が現場から地域を考え、自治体と市民がともに考え方を変えていこう。の 2 つの視点がある。の「ともに現場の経験から地域をかえ行動していきたい」のほうで考えていきたいと思っている。

1. なぜ行政・企業に対する風当たりが強くなっているのか？

今の日本はシロアリに蝕まれた家のような状態である。最近の様々な不祥事は、氷山の一角であって、これまで蓄積されてきたものが社会のルールが変わるに従い暴露されてきたものである。

今の組織は、そこで働く人々に生きる意味を提供していない。環境のために働きたいと、コンサルで植生調査をしていた若者たちが NPO を訪ねてくることがある。仕事では貴重な植生を発見してもそれをクライアントに報告してはいけない。コンサルではそれが仕事であるから。これまでの世代は「それが仕事だ。社会だ」と割り切るのが大人であるといわれてきたが、今の若者たちにはそれが通用しない。これが日本近代化 100 年の結果である。

NPO は目的を掲げそのために仕事をすることに特徴的である。若者たちに仕事の意味を提供できない企業に対し、この NPO のミッション性は、生きる意味の全体性を社会に突きつけた。これが、NPO の果たした社会的役割である。自分のことが見えていない日本の談合型社会に対し、他者を写す鏡となって社会に登場した。

仕事の意味を提供できない社会の末路とはなにか。それは社会のビジョンがない、すなわち子供たちが方向を見失う社会である。

今、人々は何を求めているのか。それは、「不安」である。今の社会は金で買えるものはすべて買ったのが現状である。人々の「真のニーズ」に答えていない。12 年前のバブル絶頂期、秋田県鷹巣町の町長が、福祉のまちづくりを公約に掲げて当選した。安心して子育てできる環境、安心な老後はデパートには売っていない。鷹巣町では行政単独ではできないと、ワーキング方式を活用した住民参加のまちづくりをおこなってきた。

2. NPO は民主主義の学校

近代教育の歴史は、地域の崩壊の歴史である。子供自身、地域・親と子、がすべて教育の役割を果たしている。だが教育の権限は教育委員会や先生が握り地域には権限すらない。

人の参加を保証する社会がイギリスであれば、日本は参加を諦めている社会である。選挙率の低さが物語っている。このままではいつまでたっても地方自治体に財源はこない。

市民の意識が変わらなければならない。そんななかで、NPO は、民主主義の学校の役割を果たしている。

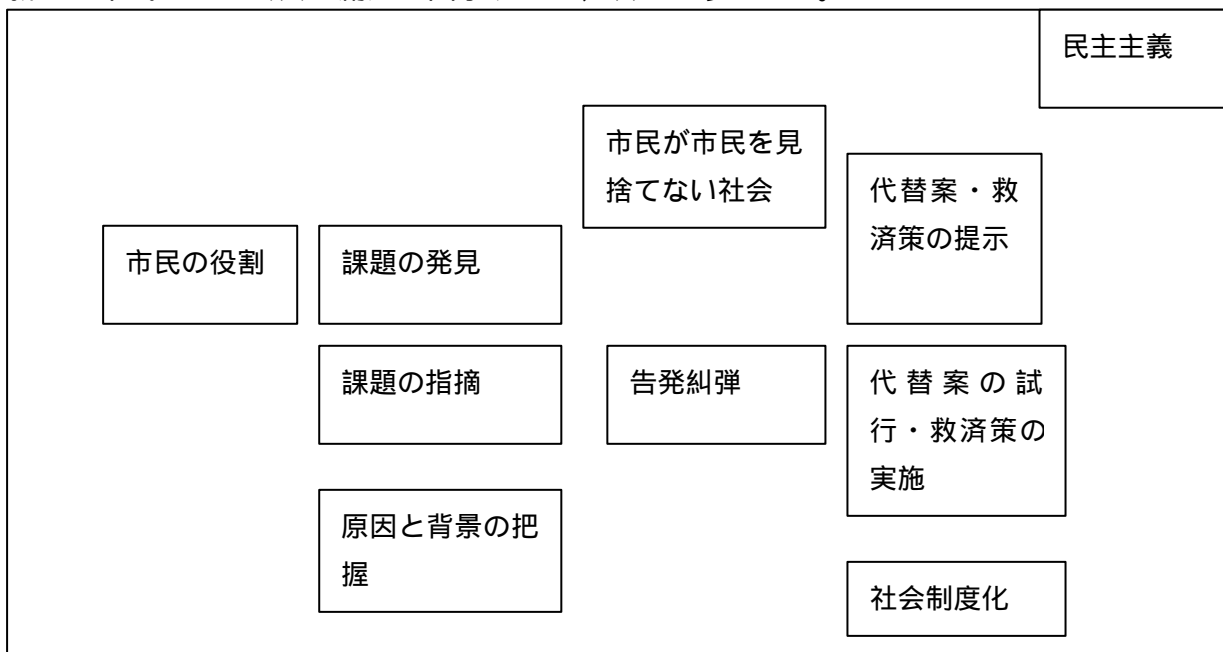
日本の市民活動は、この失われた十年の間に大きく変化した。福祉のボランティアから発生した仕事のなかには、福祉保険に認められる仕事がいっぱいある。これは、実際に親の介護などをして苦しんだ女性たちが、「同じ苦しみを同じ女性たちに味わせたくない」という思いから始まった。そしてそれが制度につながったのである。NPO は文句をつけるだけではない。新しいサービスを提供してきている。

3 .「日本型システム」の崩壊と、新しい市民による公共の創造

これまでの 100 年間、日本の公共という分野は、役所が 100%独占してきた。それ故、これまでの社会は、自分の利益が社会の利益にコミットできないいびつな社会を作り出してきた。

新しい市民による公共の創造。すなわち市民の側から立ち上げていかないと分権はあり得ないのである。

そうしたなかで、河川法や地域福祉計画で市民の参加を義務づけるなど原則が変わってきている。力もなくノウハウもない住民が力をつけてきた。新しい市民による公共の創造を図示すると、次のようになる。



4 . これからの公共のあり方

行政職員は3年おきに仕事が変わるいわば素人である。一方、NPO は専門性を兼ね備えている。お互いに相談しながらやっていく。行政の人々は、手段ではなく、ともに、大きな社会ビジョンをつくるために、深く NPO、市民活動の領域で起きていることを学ぶべきであろう。NPO には、行政にはない当事者性がある。当事者自身が当事者を支える。

ただ現状では、NPO はスポットライトを浴びたときの振る舞いが未熟である。

インドの首相が語った言葉がある。「子供たちの目が輝いている時は大丈夫」子供が欲望を持つことを社会が肯定している。一方日本の子供たちは「努力したら社会はこたえてくれるの？」と私たちに問いかけている。

不可能なことにチャレンジするひとをソーシャルアントレプレナーと呼ぶ。どんな組織の中にも、そういう人が出てくればよい。そういう人を支えることで、点から線、面と広がり社会を根底から変えることができる。社会が変わる。

以 上